

資料 2
科学技術・学術審議会
基礎研究振興部会（第20回）
令和7年11月10日

話題提供

各国の研究課題評価の状況と 研究評価改革の動向

2025年11月10日

JST 研究開発戦略センター



本資料の構成

1.各国の研究課題評価（事前評価）の状況

-公的ファンディング機関が行う個人向け研究助成の採択評価について-

2. 研究評価改革の背景と動向

- ・ 研究評価に関するサンフランシスコ宣言（DORA）
- ・ 研究評価改革のための連合体（CoARA）
- ・ その他の国際枠組みの紹介

3. 研究評価改革の議論を受けた新たな評価手法： 実験的ファンディングの事例紹介

- ・ くじ引きファンディング
- ・ 分散型ピアレビュー

「研究評価」として本説明で取り扱う範囲

- ・「研究評価」に関わる対象・時期は、以下の表のように概観できる。
- ・本説明の話題提供 1 および 3 では、このうち「研究課題評価の事前評価」を取り扱う。
- ・話題提供 2 の「研究評価改革」は、研究機関評価や研究者評価も含み、国際的な議論の動向を紹介する。

〈研究評価の対象と評価時期の概観〉

評価時期 評価対象	事前評価	中間評価、モニタリング	事後評価、追跡評価
STI政策評価 (含 プログラム評価)	事業の事前評価、 予算査定など	事業の中間評価、 年度報告など	事後評価、フォローアップ 評価、社会的インパクト評価
研究機関等評価	研究機関等の法人評価 (例: 大学・国研等の中目計)	研究機関等の法人評価 (例: 大学・国研等の中目計)	機関活動における 社会的インパクト評価 など
研究課題評価	研究プロジェクト の採択 ■ 話題提供 1, 3 の対象 ■	プロジェクトの中間評価、 ステージゲート評価 など	プロジェクトの事後評価、 フォローアップ評価 など
研究者評価	研究者の採用、昇進 ■ 話題提供 2 の対象 ■	人事業績評価 など	賞や称号の授与

1.各国の研究課題評価（事前評価）の状況

-公的ファンディング機関が行う個人向け研究助成の採択評価について-

2. 研究評価改革の背景と動向

- ・ 研究評価に関するサンフランシスコ宣言（DORA）
- ・ 研究評価改革のための連合体（CoARA）
- ・ その他の国際枠組みの紹介

3. 研究評価改革の議論を受けた新たな評価手法： 実験的ファンディングの事例紹介

- ・ くじ引きファンディング
- ・ 分散型ピアレビュー

諸外国の研究課題評価（事前評価）の状況

公的ファンディング機関による、主要な「個人向け研究助成」における研究課題（事前評価）の状況

機関名	米国 国立科学財団 (NSF)	米国 国立衛生研究所 (NIH)	ドイツ ドイツ研究振興協会 (DFG)	英国 工学物理科学研究 会議 (EPSRC)	カナダ 国立科学工学研究 会議 (NSERC)
本資料の対象の 研究助成 プログラム	PAPPG (申請・審査関 連ガイド) で規定され る研究助成プログラム	Research Project Grant (R01)	Individual Research Grants	Standard Research Grant	Discovery Grants Program
申請数・採択数	- 申請数 32,129件 - 採択数 8,535件 - 採択率 27% (2023年)	- 申請数 33,139件 - 採択数 5,385件 - 採択率 16.3% (2024年)	- 新規・継続 14,776件 - 新規採択数 3,201件 - 個人助成 新規採択率 29.5% (2024年)	EPSRC全体での新規 採択率 約22% (プロ グラム別は非公開) (2022-2023年)	- 申請数 2,802件 - 採択数 1,635件 - 採択率 58% (2023年)
事前評価 プロセス	概ね共通して、以下の事前評価プロセスを踏む。申請から採否の決定まで6ヶ月~9ヶ月程度を要する。* ①申請 → ②事務的確認 → ③少数のレビュアーによる審査 → ④審査委員会による順位付け → ⑤採否の決定				
学術的卓越性 「以外」の 評価基準	“Broader Impacts”と して社会における利益 も評価対象。	R01の「臨床研究枠」 では、医療との接続を 重視。	(社会的影響は評価基準 として明示されず。)	社会課題や国家として のニーズへの貢献など を含む。	「高度人材育成」を 学術的卓越性と同等の 重みを持って評価。
DORAへの署名	X	X	○	○	○
CoARAへの署名	X	X	○	○	X
評価に関する 近年の動向	Broader Impactの位 置づけについて、国家 科学審議会 (NSB) が 検討中。*2024年時点情報	2025年1月より、簡素 化のために評価の観点 を5つ→3つに集約。	CoARA署名に対応して、 評価実務の改革に向け たアクションプランを 2024年に策定。	メタサイエンスの観点 から、課題評価プロセ スの合理化も視野に入 れた研究助成を開始。	国内FAで協働し、課題 評価プロセスの改善も 視野に入れた研究助成 を開始 (2024年~)。

*申請数の増加に伴うファンディング機関や評価者の負担増加、レビュアーの枯渇、バイアスの低減などは共通した課題。

米国NSF：研究課題評価（事前評価）の状況

National Science Foundation：国立科学財団

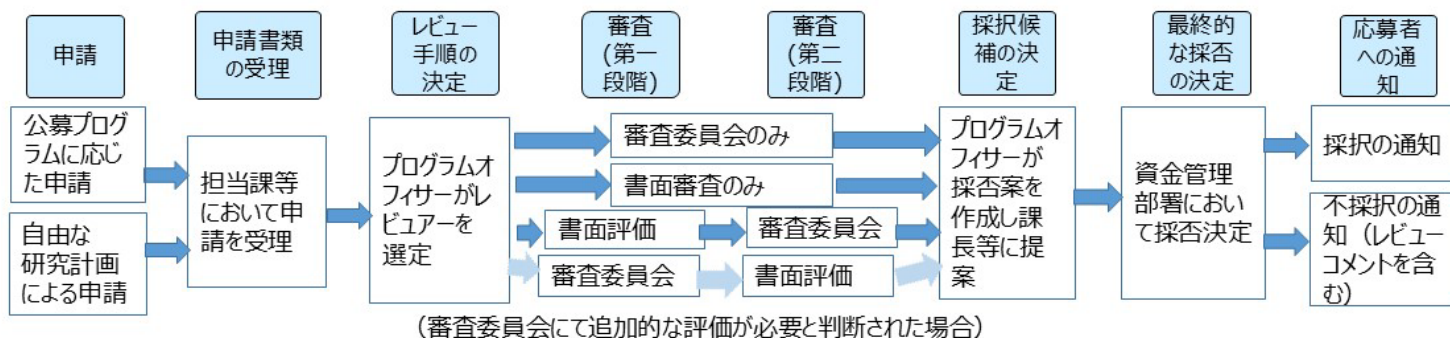
機関の概要

• 1950年に設立された独立の政府機関。医学および人文学分野を除く、科学・工学の全分野を支援。

ファンディングの概要

- NSFの個々の課等が設置するプログラムと、プログラムに関わらず自由な研究計画を提出する形が存在。
- 申請・審査は「申請および資金配分ポリシーおよび手順のガイド（Proposal & Award Policies & Procedures Guide (PAPPG)」）に基づき実施。
- 申請32,129件、採択8,535件、採択率27%（2023年度）。
- 1件あたりの1年間の配分額は中央値約2,300万円、平均値約3,100万円。

課題評価プロセス



所要期間：
約6ヶ月

評価基準

- (1) 知的メリット（Intellectual Merit）：研究面での卓越性
- (2) より幅広いインパクト（Broader Impacts）：社会的利益の潜在性

評価に関する近年の動向

- DORA、CoARAともに署名していない。
- 2024年時点、NSFの審議会である国家科学審議会（NSB）において評価基準についての検討を実施。外部評価からの「Broader Impactsが評価上あまり意味を持っていないのではないか」との指摘に伴い、**Broader Impactsの位置づけ**を主な検討対象として、課題評価（事前評価）時にBroader Impactsにもスコアを付けるべきか、といった内容が議論されていた。*2024年時点情報

National Science Foundation (NSF). 2024. *Proposal & Award Policies & Procedures Guide (PAPPG)*, NSF 24-1. <https://www.nsf.gov/policies/pappg/24-1>. などからCRDS作成

米国NIH：研究課題評価（事前評価）の状況

National Institutes of Health：国立衛生研究所

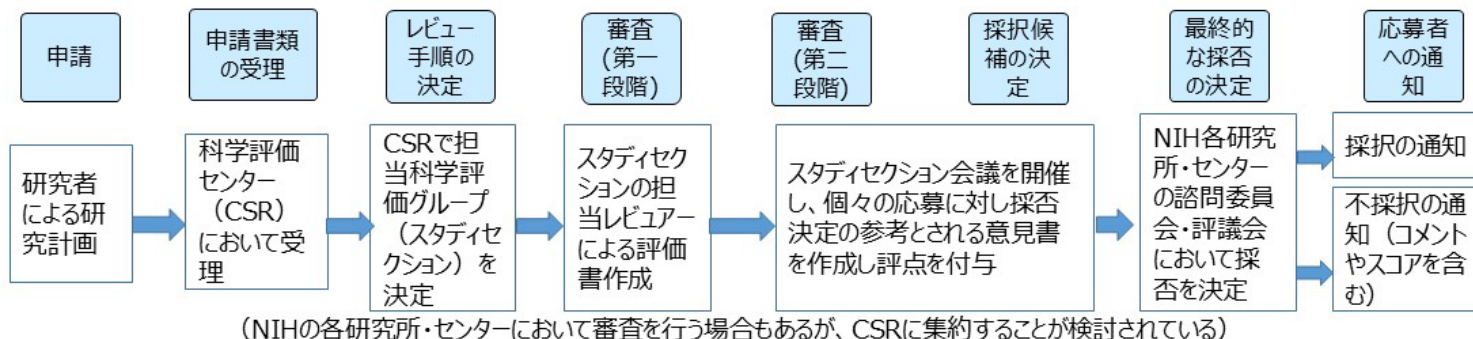
機関の概要

- 米国保健福祉省設置の中核的な生物医学研究機関であり、民生研究における最大のファンディング機関

ファンディングの概要

- 「Research Project Grant R01」
- プログラムの目的：幅広い基礎・臨床研究の支援。
- プログラムの規模：1件あたり9,000万円（約60万ドル）程度
- R01の申請数は33,139件、採択数は5,385件（採択率16.3%）（2024年）

課題評価プロセス



所要期間：
8-9ヶ月

評価基準

- (1) 研究の重要性（卓越性とイノベーション）：1～9のスコアで評価
- (2) 頑健性と実現可能性（アプローチ）：1～9のスコアで評価
- (3) 専門性およびリソース（研究者および環境）：適切・十分か、不十分かの二択で評価

評価に関する近年の動向

- DORA、CoARAともに署名していない。
- 2025年1月に簡素化されたピアレビュー枠組み（Simplified Peer Review Framework）に転換。それまでの5つの評価基準（卓越性、研究者、イノベーション、アプローチ、環境）を上記3つにまとめ、簡素化を実施。
- 評価基準(3)を二択で評価するには、レピュテーションバイアスを低減させる意味もある。

ドイツDFG：研究課題評価（事前評価）の概要

Deutsche Forschungsgemeinschaft：ドイツ研究振興協会

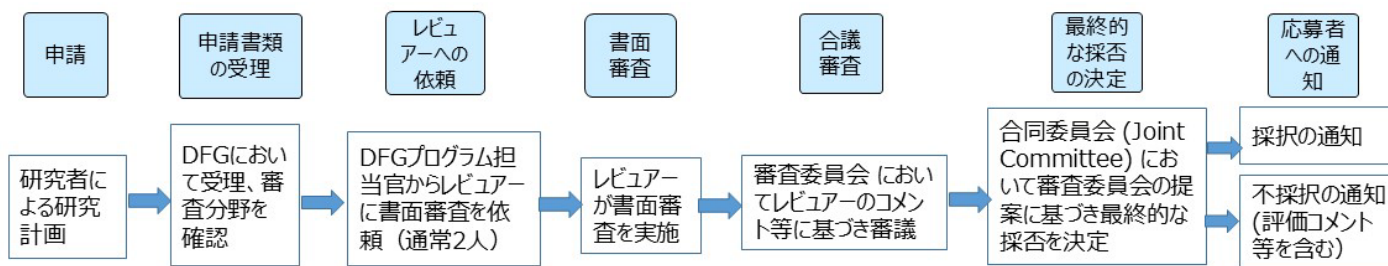
機関の概要

- 大学、研究機関、学術団体、科学アカデミーが加盟する私法上の協会で、ドイツの学界最大の自治組織として基礎研究を支援。資金は、連邦政府、州政府、EU、個人寄付等。

ファンディングの概要

- 「個人向け研究助成（Individual Research Grants）プログラム」
- 対象：人文学、自然科学の幅広い分野
- 個人向け研究助成の新規・継続件数 14,776件、採択数 3,201件
（個人研究グラントを含む個人向けグラントの新規採択率は29.5%）（2024年）

課題評価プロセス



所要期間：
約6ヶ月

評価基準

- (1) 申請プロジェクトの質（科学的重要性・独自性、目標の明確さ）
- (2) 目的と研究計画（目標の明確さ、リスクの明示、長期的ビジョン）
- (3) 申請者の質（これまでの学術への貢献）
- (4) 業務および研究の環境（*社会的価値は評価基準外）

評価に関する近年の動向

- 2021年にDORA、2024年にCoARAに署名。
- CoARA署名に対応し、研究評価においてジャーナルや出版物に基づく評価基準の不適切な使用を放棄する旨のアクションプランを2024年に策定。

German Research Foundation (DFG). 2024. Individual Research Grants.

<https://www.dfg.de/en/research-funding/funding-opportunities/programmes/individual/research-grants>. などからCRDS作成

英国EPSRCの研究課題評価(事前評価)の概要

Engineering and Physical Sciences Research Council : 工学・物理科学研究会議

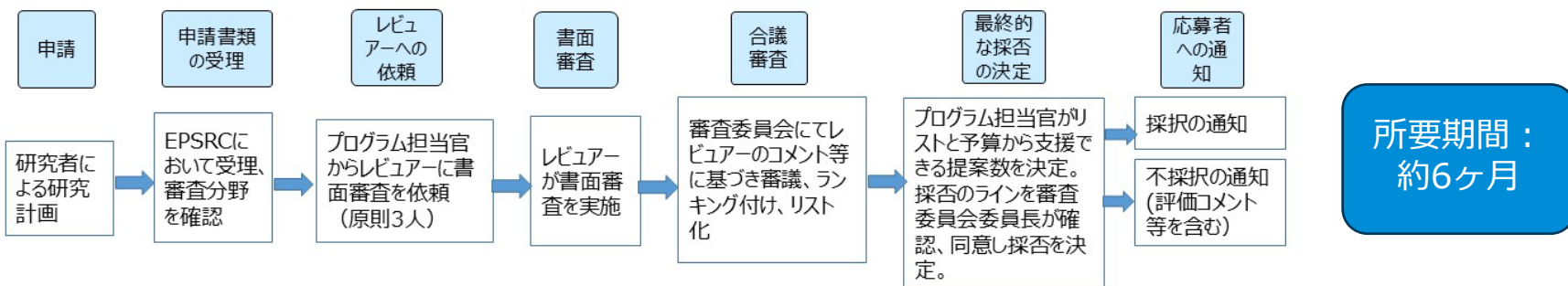
機関の概要

- 英国研究・イノベーション機構（UKRI）の中で工学、物理学分野の研究助成担当する研究会議。

ファンディングの概要

- 「Standard Grant」
- 分野：エネルギー、情報通信、量子技術等9つの領域での研究開発を幅広く支援。
- 2024年にスタートしたプロジェクトは162件、プログラムごとの採択率は公開されていないが、EPSRC全体での採択率は約22%（2022-2023年）

課題評価プロセス



評価基準

- 申請を以下の基準から6段階で評価。
- (1) 申請プロジェクトの質（新規性や将来性、手法の適切さ、社会的インパクトへ向けたアプローチの適切性など）：最優先
 - (2) (社会的) 重要性（世界や英国の社会的課題への貢献可能性、国家的ニーズとの合致など）：優先
 - (3) 申請者、グループの能力（経験、スキル、研究実行能力など）
 - (4) 資源とマネジメント（利用可能な機器や所属機関から提供される資源とそのマネジメント）

評価に関する近年の動向

- UKRI全体で2019年にDORA、2022年にCoARAに署名。
- 評価パネル向けのガイダンスに、[ジャーナルベースの定量的指標を使うべきではない旨を明記](#)している。
- 新たな課題評価手法の構築・試行も対象とするファンディングプログラム“[Metascience Research Grant](#)”を開始（2024年～）。

カナダNSERCの研究課題評価(事前評価)の概要

The Natural Sciences and Engineering Research Council of Canada : カナダ自然科学・工学研究会議



機関の概要	• カナダの自然科学、工学分野を支援するファンディング機関
ファンディングの概要	「Discovery Grant」 • 対象：国内の自然科学、工学分野の研究者、学生 • 規模：平均支援額 約480万円/年 • 申請数2,802件、採択数1,635件（採択率58%）（2023年）
課題評価プロセス	申請 申請書類の受理 レビュアーへの依頼 書面審査 合議審査 最終的な採否の決定 応募者への通知 研究者による研究計画 NSERCにおいて受理、事務的確認 プログラム担当官からレビュアーに書面審査を依頼 レビュアーが書面審査を実施 分野別審査委員会においてレビュアーのコメント等に基づき審議、ランキング付け、リスト化 分野別評価委員会のランキングをもとに、提案全体をリスト化。評価の観点のうち1項目でも最低評価だった場合は不採択などガイドラインをもとにNSERCが採否を決定。 採択の通知 不採択の通知（評価コメント等を含む） 所要期間：約5ヶ月
評価基準	以下の3要素を等しく評価。それぞれ6段階。 (1) 研究者個人の卓越性 (2) 申請書の価値（新規性、分野内へのインパクト、長期的なビジョンなど） (3) 高度専門人材の育成への貢献
評価に関する近年の動向	• 2019年にDORAに署名、CoARAは署名していない。 • 2024年、国内の他のファンディング機関（SSHRC、CIHR）と共同で、研究ファンディングのプロセス改善も視野に入れた研究助成 “Research on Research Joint Initiative” を開始（2,000万円規模）。

NSERC. 2025. *Discovery Grants peer review manual 2025-26*.
https://www.nserc-crsng.gc.ca/_doc/Reviewers-Examineurs/CompleteManual-ManualEvalComple_eng.pdfなどからCRDS作成

1.各国の研究課題評価（事前評価）の状況

-公的ファンディング機関が行う個人向け研究助成の採択評価について-

2. 研究評価改革の背景と動向

- ・ 研究評価に関するサンフランシスコ宣言（DORA）
- ・ 研究評価改革のための連合体（CoARA）
- ・ その他の国際枠組みの紹介

3. 研究評価改革の議論を受けた新たな評価手法： 実験的ファンディングの事例紹介

- ・ くじ引きファンディング
- ・ 分散型ピアレビュー

研究評価改革の背景にある問題意識

評価への論文数・引用数といった定量的指標の誤った利用への、研究コミュニティからの問題提起

- 研究活動が持つ多様性や創造性を十分に評価できていない
- 研究者の自由な発想や挑戦意欲を削ぎ、研究活動を萎縮させている
- 研究不正や過度な論文投稿戦略を招いている
- 研究者同士の過度な競争を煽り、職業としての不安定性を招いている

紹介

〈主要な提言や合意文書の論点〉

紹介

提言など	DORA (2013年)	ライデン宣言 (2015年)	香港原則 (2019年)	ラテンアメリカ 研究評価 フォーラム (2019年)	CoARA (2022年)	Dimensions of Responsible Research Assessment (2024年)
主な問題意識・論点	• 評価における定量的指標の過度な利用 • 個々の研究ではなく発表された雑誌に基づいた研究評価が行われている	• 計量が評価の代替として用いられている • 英語以外の言語での研究の軽視 • データ収集、分析のブラックボックス化	• 疑わしい研究慣行の横行 • 幅広い研究活動が評価されていない • 不当なインセンティブの最小化	• 評価における定量的指標の過度な利用 • ジェンダーの不均衡 • 文化、民族、研究テーマといった面での多様性の考慮	• 評価における定量的指標の過度な利用 • 大学ランキングの評価への利用 • 新たな研究評価ツールやプロセスの開発	• 責任ある研究活動の評価と報奨 • 研究から社会的インパクトに至る経路の多様性 • 評価者へのトレーニング

UK Research and Innovation (UKRI). 2015. *Review of Metrics in Research Assessment and Management*.
<https://www.ukri.org/publications/review-of-metrics-in-research-assessment-and-management/>.等からCRDS作成

DORA : 研究評価に関するサンフランシスコ宣言

The Declaration on Research Assessment

研究評価への定量的な指標の利用を避けるべきであるとの宣言

- 米国細胞生物学会関係者を母体として2013年に宣言を発表。
対象：研究者、研究機関、資金配分機関、出版社
- 2018年、米国細胞生物学会の他、PLOSなどの出版社やF1000、ウェルカム財団などの出資を受け、専任スタッフを抱えた積極的なキャンペーン活動へと役割を大きく進化
- 2025年10月10日現在、23,033人、3,513機関が署名。日本からは186人、19機関が署名。



署名機関・個人の地理的分布

主な宣言のポイント

- 研究助成、採用や昇進の検討の際、すなわち個々の科学者の貢献を査定する際に、ジャーナルインパクトファクターのような雑誌ベースの定量的指標の使用を排除すること。
- 研究が発表される雑誌をベースにするのではなく、研究自体の価値に基づく評価をすること。
- 論文以外の研究成果も評価対象とすること。

SFDORAウェブサイト <https://sfdora.org/signers/> からCRDS作成

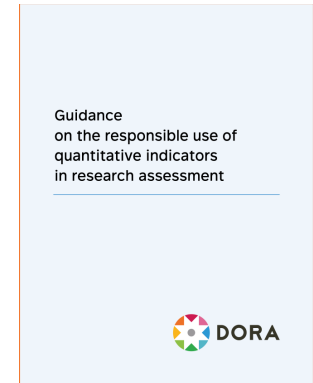
DORA：研究評価改革に向けた具体的行動

研究評価改革の理念への同意から具体的行動に向け活動をシフト

指標の責任ある利用に関するガイドライン（2024）

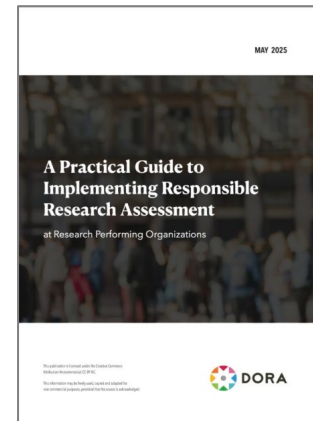
- ジャーナル・インパクト・ファクター（JIF）などの定量的な指標を評価に用いる場合の注意点を列挙。

指標	JIF	被引用数	h-指標	分野加重被引用指数	オルトメトリクス
注意点の例	個々の論文の被引用数予測指標としては性能が悪い。	分野間で傾向が異なる。研究の質の指標としては使えない。	キャリアの中断を考慮できない。使用するDBに大きく左右。	分野の定義が困難。経年的なブレ幅が大きい。	数値の算定や重み付けが不透明。



研究機関向け実践ガイド（2025）

- 研究評価改革を研究機関での評価実務へ反映するためのガイド。
- 機関内のコミュニティの構築、マネジメント層の賛同とサポート、既存の評価システムを漸進的に変化させていく継続性などの重要性を指摘。
- さまざまな国での導入事例を掲載：
（例）東京大学でのコミュニティ構築、デンマーク・オールボー大学や中国科学院での評価システム変更、など



Allen, Liz, et al. 2025. *A Practical Guide to Implementing Responsible Research Assessment at Research Performing Organizations*. Declaration on Research Assessment (DORA). <https://doi.org/10.5281/zenodo.15000683>.
DORA. 2024. *Guidance on the Responsible Use of Quantitative Indicators in Research Assessment*. <https://doi.org/10.5281/zenodo.10979644>.

CoARA : 研究評価改革のための連合体

The Coalition for Advancing Research Assessment

欧州を中心に研究評価改革を目的とした学術関連機関の連合体。
DORAに比べ署名機関へ研究評価改革へ向けた積極的なコミットを求める。

活動の変遷、経緯

- 2022年7月、サイエンスヨーロッパ（研究助成・実施機関の連合）、欧州大学協会、欧州委員会で検討されていた**研究評価改革の合意文書の最終版**が公開
 - ▶ **研究の質とインパクトの最大化を目標**とし、ピアレビューを中心とした定性的評価を重視
- 2022年9月、**研究評価改革のための連合体 (CoARA)** が発足。
- 2023年から組織機能の強化と研究評価改革へ向けた試行的取り組みを支援するため、EUのHorizon Europeから約8億8000万円（500万€）を獲得。
- 2025年10月時点で、欧州を中心にファンディング機関、大学など888機関が署名。
日本からの署名機関は無し。
- 署名機関は、**CoARAの全体原則への合意と、研究評価改革へ向けた10項目のコミットメント**が求められる。

Arentoft, Michael, Stephane Berghmans, Lidia Borrell-Damian, Silvia Bottaro, Jean-Emmanuel Faure, Vinciane Gaillard, Kostas Glinos, et al. 2022. *Agreement on Reforming Research Assessment*. Zenodo.
<https://doi.org/10.5281/zenodo.13480728>. などよりCRDS作成



CoARA : 全体原則と10のコミットメント

署名機関は、CoARAの全体原則への合意と、10項目のコミットメントが求められる。
研究評価改革へ向けた具体的な進捗状況の報告が必要。

全体原則

包括的な条件のための原則

倫理・インテグリティに関する
規則と慣行の遵守

科学的研究の自由の保護

研究機関の自律性の尊重

研究評価と研究のインパクト
決定に必要なデータ・インフラ・
基準の独立性と透明性を確保

評価基準・プロセスに関する原則

質・インパクト

多様性・包摂性・協働

10のコミットメント

1. 研究の必要性や特性に応じて、研究への貢献やキャリアに多様性があることを認識する
2. 研究評価はピアレビューを中心とした定性的評価に基づき、定量的指標の責任ある利用によりサポートされる
3. 研究評価において、ジャーナルや出版物に基づく評価基準の不適切な使用を放棄する
4. 研究評価における研究機関ランキングの利用を避ける
5. コミットされた組織的な変化を達成するために、必要な研究評価の改革に資源投入する
6. 研究評価基準、ツール、プロセスを見直し開発する。
7. 研究評価改革に対する認識を高め、評価基準や評価プロセス、その使用方法について、透明性のあるコミュニケーション、ガイダンス、トレーニングを提供する
8. 実践と経験を交換し、CoARA内外の相互学習を可能にする
9. 原則の遵守とコミットメントの実施に関する進捗状況を報告する
10. 確固たるエビデンスと最先端の研究の研究 (Research on research) に基づき、実践・基準・ツールを評価し、エビデンス収集と調査のためにデータをオープンにする

Arentoft, Michael, Stephane Berghmans, Lidia Borrell-Damian, Silvia Bottaro, Jean-Emmanuel Faure, Vinciane Gaillard, Kostas Glinos, et al. 2022. *Agreement on Reforming Research Assessment*. Zenodo. <https://doi.org/10.5281/zenodo.13480728>.

① 個別課題に対応したワーキンググループ活動

- 様々なバイアスへの対応や、新たな評価手法の実験などを目的とした13のワーキンググループが設置され、ツールの開発などを実施。
- 個別課題例： 人文学、社会科学の評価枠組み策定
初期、ミッドキャリアの研究者評価
研究申請書評価の改善

② 各国の実情に合わせた署名機関ネットワークの構築（ナショナル・チャプター）

③ ツールの実装や試行などを行うBoost プロジェクト（次ページを参照）

Horizon Europeから2023年10月～2026年9月まで3年間、計約8億8000万円（500万€）を獲得。

- 1) ワーキンググループ等で開発されたツールの実装や新たな評価アプローチの試行プロジェクトの実施。
- 2) CoARAのネットワークやアウトリーチ機能の強化。

④ 署名機関のアクションプラン、タイムフレームの公開、共有

Coalition for Advancing Research Assessment (CoARA). 2023. *CoARA Boost Project*. <https://www.coara.org/coara-boost-cascade-funding/coara-boost-project/>.
Coalition for Advancing Research Assessment (CoARA). 2024. *Working Groups*. <https://www.coara.org/wg-nc/working-groups/>.

プロジェクト例	実施機関	概要
機関パイロット プロジェクト	スウォンジー大学 (英国)	研究評価改革の影響と学術キャリア促進における ナラティブCVの使用の評価
	ソフィア大学 (ブルガリア)	研究評価をオープンサイエンスに向けて推進する手法 の開発
	バルセロナ自治大学 (スペイン)	研究評価のための新しいアプローチと指標の試行： 真の変革への第一歩
チーム プロジェクト	キプロス大学、リエカ大学 (クロアチア)、 キプロス欧州事務所	研究キャリアの向上と政策革新のためのオープンサイ エンスコラボレーション
	オウル大学 (フィンランド)、ルール大学ボー フム (ドイツ)、タンペレ大学 (フィンランド)	CoARA ExPECT – 評価基準の変更を共同学習し促進 する
	カルタゴ大学 (UCAR)、応用科学技術研究所 (INSAT) (チュニジア)、カタルーニャ生物 工学研究所 (IBEC) (スペイン)	カルタゴ大学における研究評価の改革：質的独創的 アプローチ、学際的モデル、持続可能な手順に向けて
制度改革 プロジェクト	トリノ工科大学 (イタリア)	FEDRA – 透明性、包括性、再現性のある研究評価の ための、機関向けFAIRデータレイク構築
	グラーツ大学 (ドイツ)	研究評価改革に伴う文化的移行の管理
	チェコ科学大学 (チェコ)	内部プログラムのための新しい評価ツール利用

Coalition for Advancing Research Assessment (CoARA). 2024. *Cascade Funding Projects – First Call*.
<https://www.coara.org/coara-boost-cascade-funding/first-call-cascade-funding/cascade-funding-projects-1/>.

ラテンアメリカ研究評価フォーラム（FOLEC-CLACSO）

- 2019年に発足。ラテンアメリカ地域での研究評価の発展を目的として、ラテンアメリカ社会科学評議会（CLASCO）内のフォーラムとして設立。社会課題と関連した研究活動の評価や、スペイン語、ポルトガル語による研究成果の適切な評価といったトピックを扱う。
- CLASCO自体にラテンアメリカ地域各国の961の研究機関が加盟している他、中国社会科学院、アラブ社会科学評議会、UNESCOなど計31機関がFOLEC-CLASCOの協力機関に加わる。

More Than Our Rank

- 2022年にInternational Network of Research Management Societies（INORM、URAの国際団体）が、高等教育機関の評価が大学ランキングへ過度に依存している状況を是正するために発足。
- ランキングが研究機関の強みやミッションを十分に反映していないと認識している研究機関や関連組織へ参加を呼びかけ。
- 27機関が署名しているほか、CLACSO、DORAなど14機関が協力機関として参加。日本からの署名機関は無し。

CLACSO. 2024. *What Is the FOLEC?* Latin American Council of Social Sciences (CLACSO). <https://www.clacso.org/en/folec/what-is-folec/>.
International Network of Research Management Societies (INORMS). 2024. *More Than Our Rank*. <https://inorms.net/more-than-our-rank/>.

1.各国の研究課題評価（事前評価）の状況

-公的ファンディング機関が行う個人向け研究助成の採択評価について-

2. 研究評価改革の背景と動向

- ・ 研究評価に関するサンフランシスコ宣言（DORA）
- ・ 研究評価改革のための連合体（CoARA）
- ・ その他の国際枠組みの紹介

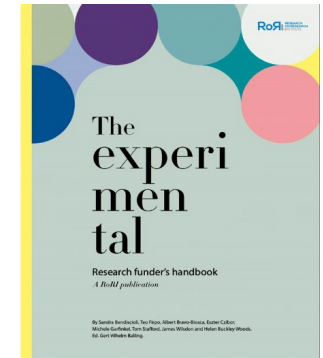
3. 研究評価改革の議論を受けた新たな評価手法： 実験的ファンディングの事例紹介

- ・ くじ引きファンディング
- ・ 分散型ピアレビュー

研究評価改革の議論を受けた新たな評価手法： 実験的ファンディングとは

【英国 Research on Research Instituteによる定義】

研究申請のレビュープロセスに新規の手法で介入し、効果を検証することでファンディングシステムの効率化や効果の最大化を狙う取り組み



研究課題事前評価プロセスで一般的に指摘される課題

- **科学の仕組みを用いたシステムの効率化**

科学研究で用いられる実験的手法を科学システムに応用し、効率やファンディング結果の向上へつなげる

- **採否のボーダーラインにある申請書の評価が困難**

- **ファンディングに関する労力の軽減と質の高い申請採択との両立**

研究者が労力をかける研究申請書のほとんどは採用されない。

採択のための事前評価にも労力がかかるため、より効率の良い資金配分方法を模索

- **ピアレビューシステムの限界**

ピアレビューの品質やレビュアーの確保の解決案を模索

- **バイアス軽減**

性別、研究キャリア、所属機関といったバイアスの低減

- **多様な研究者からの研究申請促進**

Bendiscioli, Sandra; Firpo, Teo; Bravo-Biosca, Albert; Czipor, Eszter; Garfinkel, Michele; Stafford, Tom; et al. (2022). The experimental research funder's handbook (2nd edition, ISBN 978-1-7397102-0-0). Research on Research Institute. Report. <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.19459328.v5>

公的ファンディング機関での評価手法の導入状況

いわゆる「実験的ファンディング」は、主に民間財団や公的ファンディング機関の小規模なプログラムにて、試験的導入・効果検証が進んでいる状況。

- 2025年にGlobal Research Council（NSFの呼びかけで2012年に設立された公的ファンディング機関の長によるフォーラム）が117の機関（内、有効回答47機関）を対象に、**38のピアレビューへの介入手法の導入状況**を調査。
- 労力の削減やレビュアーの枯渇、採択の公平性確保といった課題への対処として、国際レビュー、オンラインでの審査委員会などの手法は、比較的多くのファンディング機関にて導入されている。
- 部分的ランダム化、分散型ピアレビューといった**「実験的」手法の導入は少数派**。

	主な導入目的	採用割合
国際レビュー	バイアスの軽減	80%
オンラインでの審査委員会開催	委員会運営、評価者の負担軽減	78%
グループレビュー	合意形成の促進	78%
DEIを評価基準へ明示	バイアスの軽減	80%

）

AIによるレビュアー割り当て支援	作業効率化	35%
くじ引きファンディング	効率化、バイアス低減	18%
マネーの虎形式	革新的アイデアの採択	14%
申請者の匿名化	バイアス低減	13%
分散型ピアレビュー	レビュアーの確保	9%

手法	概要	期待されるメリット	想定されるデメリット	導入例
AIによるレビュアー 割り当て支援	申請書へ割り当てるレ ビュアー候補リスト作 成にAIを用いる。	•ファンディング機関 の負担軽減 •申請者とレビュアー との専門性合致	導入例が極めて少ない が、特にデメリットは 報告されていない。	スイス国立科学財団、 オーストラリア研究 会議など
くじ引き ファンディング 事例紹介	採否のボーダーライン 上にある申請をランダ ムに採択。	•評価者、ファンディ ング機関の負担軽減 •無意識のバイアス低 減	被評価者の評価に対す る信頼を損なう恐れが ある。	British Academy、 Healthcare NZ、 スイス国立科学財団 など
マネーの虎形式	審査員へのプレゼン テーションのみでの採 択決定	•革新的なアイディア の採択	プレゼンテーション能 力が高い母語話者に採 択が偏る可能性がある。	UKRI-EPSRCなど
申請者の匿名化	レビュアー、審査委員 会へ申請者を匿名化し た上で評価を実施。	•バイアスの低減 •革新的なアイディア の採択	申請者の研究実施能力 の評価が制限される	NIH、UKRI-EPSRC、 オーストラリア科学基金 など
分散型ピアレビュー 事例紹介	申請者が他の申請者の レビューを担う。	•レビュアーの確保 •レビュアー一人当た りの負担軽減	悪意のある申請者によ る他の申請への低評価	フォルクスワーゲン 財団など

➡ くじ引きファンディング、分散型ピアレビューでは近年効果検証が進む

Rushforth, et al. 2025. *Transforming Assessment: The 2025 Global Research Council Survey of Funder Approaches to Responsible Research Assessment*. May 2025.
<https://doi.org/10.6084/m9.figshare.28856480>. などからCRDS作成

具体例（1）くじ引きファンディング

British Academy（英国学士院：人文学、社会科学分野のアカデミー）

- ・ 対象としたファンディングプログラム：

Leverhulme Small Research Grants（1件10,000 £、総額170万 £ 程度の若手研究者向け助成）

- ・ 導入目的：バイアス軽減と審査効率の向上

- ・ 実施方法：

最初のステップでは、申請書のレビューを通常通り行い、全体の下位30-40%の申請書を排除。

上位10-15%の非常に優れた申請書については、レビューに基づいて直接採択。

中間層の申請書については、無作為抽出によって採択。

- ・ 結果：

中間部分の申請書の選定に無作為抽出を取り入れることで、潜在的なバイアスを軽減し、公平性を保つことができた。

申請者からの批判を警戒していたが、多くの申請者は公平な採択手段であると評価した。

⇒ その後、現在もくじ引き形式での採択判断を継続中。

The British Academy. 2025. *Partial Randomisation Trial Extended after Diversity of Applicants and Award Holders Increases*. April 16, 2025.
<https://www.thebritishacademy.ac.uk/news/partial-randomisation-trial-extended-small-research-grants/>.

Science|Business. 2025. Commission Considers Lottery Awards for Horizon Europe.
<https://sciencebusiness.net/news/r-d-funding/horizon-europe/commission-considers-lottery-awards-horizon-europe>.

具体例（2）くじ引きファンディング

Healthcare NZ（ニュージーランドの公的ファンディング機関）

- ・ **対象としたファンディングプログラム：**

Explorer Grant Project（トランスフォーマティブ研究、革新的なアイデアを対象。1プロジェクト辺り最長2年間で金額は約1300万円（150,000NZD）に固定。年間採択数は10-30件程度。）

- ・ **導入目的：** ハイリスク研究の公平かつ透明性ある方式での採択

- ・ **実施方法：** 研究申請者は匿名化。

研究申請の中から専門家パネルによって「不適格」な申請を除外。

除外した申請以外の全ての申請をリスト化し乱数を割り当て。乱数の小さい順に採択。

- ・ **結果：** 2013-2019の申請者全員を対象としたアンケート調査によると、くじ引きがExplorer Grantに適していると答えたのは回答者の内80%程度。

他のファンディングへも適用可能かどうかは意見が分かれる。肯定・否定的意見共に40%超。

⇒ その後、現在もくじ引き形式での採択判断を継続中。

「くじ引きファンディング」に関する他機関での検討状況：

スイスSNSFでも導入されている他、UKRI、EUの次期フレームワークプログラムでの導入が検討されている。

Bendiscioli, Sandra; Firpo, Teo; Bravo-Biosca, Albert; Czibor, Eszter; Garfinkel, Michele; Stafford, Tom; et al. (2022). The experimental research funder's handbook (2nd edition, ISBN 978-1-7397102-0-0). Research on Research Institute. Report. <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.19459328.v5>

具体例（3）分散型ピアレビュー

フォルクスワーゲン財団

- **対象としたファンディングプログラム：**
Open Up（1件辺り40万€程度で人文学、社会科学を対象としたプログラム）
- **導入目的：** ピアレビューのコスト削減、レビューの質や公平性の向上
- **実施方法：** 申請者自身が他の申請者の申請書をレビュー
- **結果：** 研究申請のレビュー期間をこれまでの半分以上に短縮。
これまでの手法よりも多くのレビュアーを割り当て可能であり、以前と比べ申請あたり3倍近く時間をかけた審査が可能となった。レビュアー1人当たりのレビュー時間は平均60%削減。
事後調査によると、参加者の大部分がこの方法を肯定的に捉えている。
⇒ その後、現在も分散型レビューを継続中。

「分散型ピアレビュー」に関する他機関での検討状況：

UKRI、NSFなどの公的ファンディング機関でもトライアルが行われる予定。

RoRI, Research on Research Institute; Butters, Anna; Benson Marshall, Melanie; Pinfield, Stephen; Stafford, Tom; Bondarenko, Alexander; et al. (2025). Applicants as Reviewers: Evaluating the Risks, Benefits, and Potential of Distributed Peer Review for Grant Funding Allocations (RoRI Working Paper No. 17). Research on Research Institute. Preprint. <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.29994841.v2>